

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	44
基本施策	12	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	4	不登校等の子どもたちへのサポートの推進		

1 施策の概要

基本方針	いじめや不登校などに迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	学校、家庭、地域の連携のほか、教育相談員の配置により、いじめ等への対応が強化されてきている。	学校、家庭、地域の連携により、不登校やいじめ等への対応が強化されてきている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	いじめは絶対にあってはならないものであるが、不登校対応も含めて迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化していく必要があり、特にインターネット社会での新たないじめを生じさせない対応も必要となっている。	不登校やいじめ等の対応について、迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化していく必要があり、特に教育相談員については、未配置となっていることから、早期の人材確保を図っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	1,000	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】教育相談員配置事業	教育総務係	34	C	継続/現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	不登校等の子どもたちへのサポートの推進については、日々の指導等の対応が重要であり、小1プロブレム及び中1ギャップへの対応を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	B	関連する事業をはじめとして、学校・家庭・地域における日々の緊密な連携等により、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	平成23年度は、教育相談員が未配置となったが、日々の連携等において直接に予算支出を伴わず、概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	基本的に義務教育の対象となる児童・生徒の全員に対象が及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	不登校等の子どもたちへのサポートの推進については、教育相談、学校評議員の配置及びPTAの活動等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
不登校等の子どもたちへのサポートの推進を図るため、日々の指導等の対応をはじめ、小1プロブレム及び中1ギャップ等の対応が図られており、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
いじめや不登校などに迅速・的確に対応していくためには、相談・指導体制の強化が必要であり、関連事業との相乗効果と併せ、新たな諸課題への対応のため、継続していくものとする。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止